

# 基本施策評価シート

基本施策最終評価

B

基本施策通し番号 1

基本施策 結の心あふれる人づくり

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	ふるさとに根ざした特色ある学校づくり	A
施策2	生涯学習の推進	B
施策3	家庭の教育力、地域の教育力の充実	B
施策4	心豊かな青少年の育成	B
施策5	国際化・情報化社会に対応できる人づくり	B
施策6	小中学校等の適正規模化	A

## 成果指標

指標	内容	令和2年度目標	令和2年度末実績	単位	令和2年度の成果の検証
図書館の来館者数	図書館の年間延べ来館者数	87,500	73,835	人	新型コロナウイルス感染症対策による休館や図書館利用の自粛により、来館者数は減少した。しかし、図書館まつりでの図書館オリジナルキャラクター発表や、夏休みの宿題支援事業など新たな取り組みを進め、幅広い年齢層の利用者に対する取り組みができた。
公民館講座・教室受講者数	各公民館で開催する講座や教室の年間延べ受講者数	27,500	9,462	人	新型コロナウイルス感染症対策による公民館の休館や事業の縮小が影響し、受講者数は大幅に減少したが、感染拡大防止の対策を講じながら、随時、講座を開催し、人づくり・つながりづくりの場を提供することができた。
国際交流講座開催数	各公民館や生涯学習センターで開催する国際交流講座の開催数	20	5	回	放課後の子どもたちを対象に、英語・中国語講座、国際理解を深める講座など、市民が外国語や異文化に触れ、国際理解を深めることができた。
ICT機器の活用率	デジタル教科書などが配備された学年における授業日数に対するICT機器を活用した日数の割合	小学校 100 中学校 100	小学校 91 中学校 83	%	全小中学校の高速通信ネットワーク環境を整備するとともに、小学4年から中学3年生に1人1台のタブレット端末を整備した。また、教員対象の研修会を開催するとともに、授業では児童生徒がタブレットを利用して課題解決学習に取り組んだり、プレゼンテーションを行ったりしながら学びを進めたことで、活用率が着実に向上している。
「将来の夢や目標を持っている」割合	「将来の夢や目標を持っている」小学校6年生、中学校3年生の割合	小学校 100 中学校 100	小学校 90 中学校 82	%	新型コロナウイルス感染症対策により、職場体験等のキャリア教育の機会を失したが、これまで推進してきた夢や志を育む教育、地域と進める体験推進事業、教員等の指導力とサポートの強化により、昨年度と同程度の実績を維持することができた。

## 後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、地域や人とのつながりよりも、個人の生活を重視する傾向になるとともに、地域における人間関係が希薄になり、地域や家庭が担ってきた人と人とのつながりの中で人を育てるという機能が弱体化してきている。このため、市では教育理念を掲げ、「結の心」を醸成するために、家庭、地域、学校のそれぞれの教育力の連携を図りながらさまざまな施策に取り組んでいる。</li> <li>・児童生徒数の減少に伴い、学校では適正な集団規模を確保することが困難になってきている。</li> <li>・経済や文化をはじめ多方面で国際化が進んできており、価値観を理解して共存する「多文化共生社会」に対応できる国際感覚のある人づくりが求められている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育では、「ふるさとを知り、ふるさとを創る」活動などを通して、家庭や地域と連携を進める学校づくりが必要である。</li> <li>・学校における適正な集団規模を確保するために、学校再編を進める必要がある。</li> <li>・さらに進展する国際化・情報化社会に対応できる児童生徒の育成と、国際文化や価値観に触れる機会の提供が必要となっている。</li> <li>・生涯学習では、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を地域の中で生かすことのできる仕組みづくりが必要である。</li> </ul>

## 社会情勢・市民ニーズの変化

・道徳の教科化(小学校:平成30年度、中学校:平成31年度)や外国語活動の教科化(小学校:令和2年度)、スマートフォン等の普及や企業等におけるAI導入の進展等により、国際化・情報化社会に対応できる児童生徒の育成が求められ、教育現場からALT配置やICT機器整備充実の要望がある。

・いじめによる事件等が報道される中、保護者、市民の小中学校におけるいじめ事案に対する関心は高い。

・小中学校の再編については、人口減少が進む中で適正規模化を進めるための統廃合に理解を示す市民が多いものの、地域の核となる学校が無くなることへの不安も多い。

## 現在の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小中学校の小学4年から中学3年生の児童生徒に、1人1台のタブレット端末を整備した。</li> <li>・24時間対応のいじめのメール相談や臨床心理士によるカウンセリング、いじめに対する情報の共有化などいじめ防止の取り組みを強化している。</li> <li>・公民館で開催する講座や教室は、結の故郷ふるさと教育推進計画に基づき、ふるさと教育に力点を置いて実施している。</li> <li>・小中学校の適正規模化のため、平成29年1月に大野市小中学校再編計画を策定した。</li> <li>・新聞やメディアで紹介された本、映画化やドラマ化、アニメ化された本など、様々な分野の雑誌を希望する利用者が増えている。また、最近の出版傾向として、書下ろしの文庫本がシリーズ化して毎月数多く出版されており、リクエストする利用者が増えている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生100年時代に向けて、大野市に必要な生涯学習について、ふるさと教育の分野のほか、学び直しや時代に応じた知識や技術の習得、地域の課題解決など広く検討する必要がある。</li> <li>・青年活動推進事業補助について、青年活動に参加する人材や放課後子ども教室事業の安全管理員の人材確保に苦慮している。</li> <li>・策定した小中学校再編計画の見直しを行い、保護者や地域の理解を十分に得ながら、取り組みを進める必要がある。</li> <li>・初版出版部数の減少により、地方の書店では入手が困難な本や、入手までに時間がかかる本が増えている。本に関する情報収集を迅速に行い、書店と連携して利用者のニーズに応じる必要がある。</li> </ul>

## 基本施策の「成果」

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢や志を育む教育や地域と進める体験事業を推進したことにより、多くの子どもが将来の夢や目標を持つようになった。</li> <li>・いじめ防止対策の強化や学校におけるいじめの早期発見、早期対応等により、子ども達は安心して安全な学校生活を送ることができている。</li> <li>・小中学校の再編について、大野市小中学校再編計画検討委員会を設置して見直しに向けた協議を進め、その結果を基に大野市小中学校再編計画(案)を作成した。</li> </ul>
----	---

## 改善点

・ふるさとに根ざした特色ある学校づくりを進め、ふるさとへの誇りや愛着は培われてきた。今後は、日々の学校教育において地域と連携しながらふるさと教育の充実を図っていく。

・小中学校再編計画の改訂に向けて、大野市小中学校再編計画(案)の説明会を開催するなど、学校再編に対する保護者や住民の理解を深める。

・定例公民館長会議等を活用し、人生100年時代における生涯学習のあり方や地域づくりの観点から、地域と共に何が出来るかを考え、具体的な事業を検討する。